

令和5年度 事業活動報告

令和5年度は長年悩まされ続けた新型コロナウイルスも、インフルエンザ等と同等の5類に移行され、少しずつではありますが本来の生活、業務を取り戻そうと試行錯誤する一年となりました。しかし地域においてもやっちく会においても感染者は多数確認され、本来の地域福祉活動や勤務者の確保や感染対策、BCPについてあらためて考えさせられた一年となりました。スタッフも利用者様の「豊かなくらし」を守るため、誇りと責任をもって常に高い緊張感の中で業務を行ってまいりました。

このような状況の中、特養では利用者の高齢化及び重度化により入院等が多く発生することとなり、また在宅にて入所待ちの方々も医療を必要とされる方が増加し、スムーズな入所がより一層厳しい状況となり、結果空床ベッドを多く抱えてしまい減収となりました。

短期入所生活介護事業についても近隣にて新型コロナウイルス感染が確認され、受け入れの一時停止など利用者確保及び受け入れ態勢の方策が整わず稼働率が減少となりました。

通所介護事業については新型コロナウイルス感染の余波を受けながらも、日々のサービス内容を工夫し、リハビリ・レクリエーションの充実を図り前年度の稼働を超えることが出来ました。

児童福祉事業におきましては、子育て支援を開始し、また地域とのつながりをこれまで以上に重要視し、地域の方々が少しでも園に足を運びやすい環境を整備しているところです。しかし少子化の厳しい状況の中、稼働率は減少傾向にあります。今後もInstagram等で魅力的な活動内容を地域に発信し、稼働を上げていきたいと考えます。

職員の確保・育成については、やっちく会の安定的な運営を考えるうえで避けることの出来ない喫緊の課題と考えます。まずは現在働いている全職員に法人理念を深く理解していただき、法人の求める人材像や目指すべき方向性を明確にします。職員ひとり一人の自主性を尊重し、やりがい・働き甲斐を感じられる職場環境を構築していかなければなりません。

今後はボランティアや実習生を積極的に受け入れ、地元高校や専門学校へのアプローチを行い、またやっちく職員による職員紹介制度を推進し、魅力的なSNS等を定期的に発信することにより法人の認知度をさらに高めていく必要があると考えます。

私たち社会福祉法人松山やっちく会が、この地域になくてはならない存在であり続けるために、これまで以上に公益的な取り組みの実施、地域に根差した地道な取り組みや活動が必要になってくると思われまます。今後も各事業所で、やっちく会の一員としての自覚を強く持ち、多様化するニーズに柔軟に対応し、常に利用者視線に立ったサービスが行えるよう研鑽を重ねていく必要があります。今後も利用者様に生きがいを持って生活していただけるよう支援していくことがやっちく会に与えられた使命と考え、地域福祉推進の中核団体であることを強く自覚し、職員一丸となって事業運営に邁進していきたいと考えます。